

## 黙禱 杉原健児前代表のご逝去を悼む

去る2月20日午後6時急逝された杉原健児前代表の通夜は23日告別式は24日多磨日華斎場思親殿で行われました。 囲碁対局中大勢の友人の目前での劇的な死でしたので、各方面から死を惜しむ声が寄せられました。 当時の緊急連絡を初め、弔電以下を採録して追悼の記録とします。 黙禱願います。

### 至急報 02/21/11:47 鬼塚信子です。

杉原健児さまがお亡くなりになられたという知らせをたった今、下記の通り受け取りました。 突然の訃報に茫然自失しております。

取り急ぎ、KKFCの幹事メールでお知らせします。

#### 記

今日は定例の明陵五期囲碁会の日で帝劇ビル地下の東京六甲クラブで島田、杉原、広瀬、木ノ下、高橋、それに昼過ぎには塩治君も参加して囲碁を楽しみました。 昼食を済ませて午後3時半頃、島田君と対戦中の杉原君が長考かなと思う姿勢から突然ぐらりと傾きました。 傍で観戦中だった高橋が急ぎ支えましたので床に落ちることはありませんでしたが眼鏡は飛び茶碗はひっくり返る異常な状態になりました。 クラブの事務の方が直ぐ119番に通報をしてくれました。 5分ほどしてビルの管理室からAED持参で職員が来られ胸をはだけてAEDを装着し、その指示に従って心臓マッサージを始めました。 10分ほどして消防局の方が来てくれ、酸素吸入や心臓マッサージを続けてくれました。 更に

#### 【弔電】

長い間郷土北九州の発展に関心を抱いてくださり、応援団としてお力添えを賜りました。 常に真摯に考えて頂きました。 関門ファンクラブは全国に誇るべき仕組みになりましたのも杉原さんのお力添えでした。 ありがとうございます。 心よりご冥福をお祈りいたします。

#### 【弔電】

杉原様は生前、ふるさと北九州市を愛し、いつも応援してくださいました。 私たち北九州市職員にとって心の支えが折れたようで悲しみにたえません。 在りし日のお姿を偲び、心からご冥福をお祈りいたします。

#### 【弔辞】

杉原健児前代表の思いを受け継ぐ

前号会報では原稿の締め切り後にて1行の訃報のみでしたが、多くの会員の皆様から、故杉原健児前代表に対し温かい追悼のお言葉を寄せて頂きましたこと、心から感謝申し上げます。

杉原さんは、代表を退任されても、ホームページの「子孫に残す言葉」やイベントのカメラマンなど、多々に亘り、当会の基盤を支えて頂いたことに気がつき、失ったものの大きさに愕然としています。 また、福岡県人会のインタビュー記事が遺言になったのですが、「目的のない組織、仲良しクラブはやらない」との信念を吐露されていますが、心当たりのあることです。

杉原さんが始めた「北九州市を考える会」は北九州市の活性化に貢献する目的でしたが、私ども若手が「もっと楽しい会」と、「北九州ファンクラブ」に改称、下関の会との合流、会報発行など活動を多様化した結果、面白みは出たがやや焦点がぼやけたものになりました。「目的を持つ意味ある活動」と「市のことばかり



して救急隊の救急車と東京医科歯科大の救急車が着きました。 第一発見者と云う形で私も同乗させて頂きましたが、救急車に医師3名が乗り組み医科歯科大救急センターに向かう間にも酸素吸入をし、心臓マッサージをしながら4分ごとにカンフル注射を打っていました。 カンフル5本くらい打ったところで医科歯科大に着き集中治療室に搬入されました。 その後のことは判りません。

夫人やお子様3人が揃った18時頃遺体とご対面させて頂きました。 結局意識は一度も戻らなかったようです。 遺体は一旦警察に引き渡された様で、その後私も電話で丸の内警察刑事課の事情聴取を受けました。

高橋 正二拝

前北九州市長 末吉 興一様

北九州市病院局長 吉田茂人様

代表 長崎新一

では面白くない、もっと楽しい会に」とのバランスには今も苦勞しています。 講演のテーマ・講師も見つけて頂くなど活動の多くはボランティアの幹事依存ですので、「目的ある会、意義ある会」との旗振りも、幹事皆さんの足を引っ張らないようにとの気持ちが優先します。 杉原さんが、代表を退任され縁の下に徹したのも、同じ気持ちであったかと思いました。

2月18日に北九州市より当会が表彰を受けたこと、20日に杉原さんが急逝されたこと、この二つの偶然の重なりを踏まえ、私は杉原さんの意思を活かしてしっかり会を継承して行きたいと決意を新たにしました。 今回、会の目的を再認識し、会の運営ルールを明確にするため会則を改定しましたが、更に代表としてできる範囲で、「意義ある会」と「楽しい会」が両立するよう舵を操るつもりです。 会員の皆様のご支援とご理解をお願い申し上げます。

お詫び：この度の杉原前代表の訃報の110号での扱いは失礼ではないか、との苦情が多数寄せられました。 実質的に校了後でしたので最終欄を再校正するのが関の山でしたが、差し込みもあった、と反省しています。 会報委員長 大鬼諫

## 追悼 胸に刻む思い出の数々 有難うございました

杉原健児先輩の思い出 副代表 鬼塚信子

杉原先輩に初めてお目にかかったのは21世紀に入る少し前で、先輩は「ふるさとの役に立ちたい」と奮闘していらっしゃいました。かんもん北九州ファンクラブに入会を誘われ、初めて読ませていただいた会報は堅苦しい記事が多く、私には難解でしたが、杉原さんが生真面目に頑張っている姿に惹かれました。在籍していることだけで先輩のお役に立てるのであればという軽い気持ちでおりましたところ、あにはからんや会報の発送、会計、インターネットと次々に仕事を頼まれてしまいました。また、杉原さんが委員長であった福岡県人会のインターネット委員会にも「人が足りないから来てくれ」と言われ、そこでもご一緒させていただきました。今年の福岡県人会の会報誌「東京と福岡」3月号のインタビュー記事で、杉原さんのインタビュアーを担当させていただいたのが最後になったのですが、今から思えば誠にありがたいことでご縁を感じます。2月1日に、「お陰さまで、満足の行く最終稿に仕上がりました。勝手なお願いを聞いていただき、いろいろとお世話をお掛けしました。本当にありがとうございました」とメールをいただいたのが、杉原さんとの最後のやり取りです。インタビューの中で、「私のうしろにはコンピュータがいつも付いて回っていました。私の一生は、常にコンピュータが助けてくれた人生だったと思います」とおっしゃられました。杉原さんは、後世に残したいものをインターネットの中に書き溜めておられました。それらをうまく後世に繋いでいくことが、私にできるせめてものことと思っております。杉原先輩が常に「人の役に立ちたい」、「何かに貢献したい」という気持ちを持ち続けていらっしゃったことにあらためて感銘を受けます。教えていただいたことを大切に、私も少しでも人のお役に立つように考え行動していきたいと思っております。

杉原健児さんの逝去を悼む 会員 山口義夫

全国ふるさと大使連絡会議の創設にかかわり、代表退任後は次世代のために子孫に残す言葉を募る活動を始められたところでした。杉原健児さんが友人との囲碁の席で突然倒れ、救急車で移送された病院において逝去されたとのこと誠に惜しい人が亡くなったと思いで一杯です。杉原さんは「北九州ファンクラブ」（現在、かんもん北九州ファンクラブ）のホームページを立ち上げ代表を務め、市長から感謝状を受けて喜んでおられたこと、ご一緒に北九州市を訪問したことなどが思い出されます。今年は当会発足20回記念の全国大会。杉原さんと共に参加できないのが残念でなりません。杉原前代表のご冥福を切に祈ります。合掌（全国ふるさと大使連絡会議代表）

追悼 感謝の気持ちを籠めて 会員 上釜真一

杉原前代表様、お疲れ様でした。私が、杉原前代表と出会ったのは設立されたばかりの北九州ファンクラブ（当時）の世話人会でした。

当時横浜在住で20代だった私は北九州市のUIターンの登録から北九州ファンクラブに入会したものの、福岡市周辺に在住経験があったが、北九州市には縁もゆかりもない上に初めての参加だったので、右も左もわからない私を気にかけてくれたのは杉原前代表でした。

北九州ファンクラブで活動していく中で、人一倍北九州を愛してやまない杉原前代表の情熱と誠意が周りの参加者をひきつけていきました。私も安心して北九州ファンクラブの活動に没頭していきました。

やがて仕事が忙しくなって出られなくなった上に、訳あって神奈川県から長野県に移り、かんもん北九州ファンクラブから遠ざかっても杉原前代表がいるファンクラブに対する私の情熱は変わりませんでした。

杉原さんがかんもん北九州ファンクラブの代表の座を退き、私も現在の松本市に落ち着き、史蹟散策会中心に参加するようになっても杉原前代表の存在が大きかったと思います。私が最後に杉原前代表にお会いしたのは一昨年の忘年会でした。そのときの杉原前代表は元気でおられたので私も安心していました。

杉原前代表がかんもん北九州ファンクラブの前身から築きあげた実績・財産は、長崎代表をはじめとする現在の世話人や私のような古くからの会員がしっかりと引継ぎ、5年10年先とかんもん北九州ファンクラブを守りつつ時代にあった運営を心がけていきたいと思っています。心よりご冥福をお祈りします。

杉原健児さんの思い出 副代表 井崎淳一郎

1997年頃だったと思います。東京福岡県人会に入会すると同時に、【かんもん北九州ファンクラブ】の会報が届いて、日く 会報を隔月で発行（年間6回）、話（講演会）、歩き（散策会）、懇親交流会（暑気払い・忘年会）等の行事が有って、年会費は1,000円。

これは入って！損は無い！と迷わず入会しました。頂いた会員番号は0116です。出席率が良いので2006年には幹事を拝命、役員会に出るようになってから、当時の杉原代表の活動振りに感心しました。会報の編集～印刷会社への入稿までの一貫作業、会員名簿の作成に加えて、ホームページの運営まで担当されていたことです。どの作業も根気が求められるのは言うに及ばず、パソコン操作・ITに関する知識が無ければ出来るものではありません。私の一世代以上のベテランにもこんなにスキルの有る方がいるんだと驚きました。会のHP・トップ画面の左欄に、ふるさとリンク集と教育機関のコラムがあります。2009年に入って、杉原さんから、このコーナーを充実したいので、ふるさとリンク集に〈銘酒〉〈著名人〉と教育機関に〈大学・高専・短大〉を設けるので、掲載済みの〈トピックス〉、〈観光〉を真似て作成するよう依頼されました。快諾すると、編集用プログラムとアップロード用ツールが送信されてきました。分からない所（右上に）

は電話で指導を受けて、情報の入手と入力作業を開始して、同年の5月から9月の間、暑さにも負けずに奮闘してツールが送信されてきました。分からない3つを何とか開設することが出来ました。4番目に作成したのは〈名所・旧跡〉(2010.10.14開設)です。今年6月にユネスコ世界遺産委員会で近代化産業遺産群が審議されますが、北九州市、下関市と萩市に所在する産業遺産を紹介しておりますので、参考して下さい。もう一つ忘れられないのは、桐箱に入った【黒松白鹿】(辰馬本家酒造)を、暑気払いと忘年会に必ず提供されていたことです。貰い物ですがと謙遜されていましたが、豪華な一升瓶との出会いを毎回楽しみにしておりました。最後に一言、当会との出会いとなった会報の送り主は杉原さん、その人です。

#### 前代表 杉原さんの思い出

##### 元副代表 前田昌亮

1. 杉原さんは、北九州市の為に大きな仕事をされた方でした。「かんもん北九州ファンクラブ」の前身：「ふるさと北九州を考える会」を設立され、北九州市の「ルネッサンス構想」の応援団として、市の活性化に関する講演、討論会を、1988年(昭和63年)11月〈第1回〉から1996年(平成8年)12月〈第24回〉まで8年1ヵ月に亘り開催された。私はその後の入会なので、当時の細部は知らないが、地域の課題に関し市民ベースの整理・共通認識の醸成を図り、「北九州市の在京民間応援団」として、当時貴重な貢献をされたようだ。
2. 現在の「かんもん北九州ファンクラブ」の大きな特徴は、在京北九州並びに下関出身者の、ふるさと情報センター、人的交流の拠点であり、行政(東京事務所)と緊密な連携をとって、出身者の為の貴重で身近なセンターと成っている点にあらう。「考える会」からこの誇るべき「ファンクラブ」への改装・立ち上げも、杉原さんの手で行なわれた。
3. 会の設立の目的とその後の経緯：設立者の当初の意図は、地域の再建・振興を計画する市への「市民側からの応援団」であった。最近、杉原代表から「初期の目的は達成されているから、ファンクラブを解散したい」との提案があったが、会発足時より時期をおいて入会した多くの会員は、発足時の趣旨・目的は知らず、入会した夫々の時期におけるファンクラブの魅力に魅かれて入会し活動に参加したわけで、突然の解散提案には賛成できなかった人が多かった。会の活動の実態も、市のためではなく、文化面や住民自体のための企画などが主になり、住民の意識や価値観も、時代毎の環境変化と共に大きく変化していたためであらう。
4. 杉原さんは、理工系出身の人らしく、どちらかという口数が少なく、文系の人に多いザックバランなタイプでは無かった。2000年に私が提唱して立ち上げた「歴史を楽しむ会」には深い理解を示され、応援して頂いた。ご本人は殆んど会合には出席されず、少々寂しかったが。
5. この様に杉原さんは、会の最初から今日まで、終

始中心の大黒柱であった。今時80歳に入ったばかりの若さでの突然のお別れは、残念でたまらない。謹んでご冥福を祈ります。

#### 人生の師、杉原さん 感謝の気持ちを籠めて

##### 副代表 利重盛久

振り返れば杉原健児さんとは長い長いお付き合いで、私にとっては人生の師でした。1988年日建設計主催の「都市経営フォーラム」や「ふるさと北九州を考える会」「海峡観光都市〈かんもんの会〉」の発足時より現在のKKFCまでの約30年間、H8・8・8(スリーエイト)発足の全国ふるさと大使連絡会議では19年間、北九州応援団の集いもその前身のルネッサンス大使東京懇話会(H13・5)時代より15年間、福岡県人会では、「会員証活用委員会」で8年間延べ50回の担当者会議を実施。また各種団体が集合する「神田明神桜見会」毎年4月第一土曜夕方1000円会費で今年は22回目。今年もKKFCとふるさと大使の有志仲間と一緒に杉原さんを偲んで献杯した。各所で活動されたが、やはりKKFCが一番印象的、会議後の「くまもと」での懇親会では、家族のこと、子供自慢など殆どせず、専ら「ふるさと談義」を繰り返し、最終電車で帰宅しようと誓いながら楽しんだものです。杉原さんの強い情熱と信念がリーダーシップとなり、その遺志を継ぎ、我々は自分の持てる力で発展に努力することだと確信しています。杉原さんはKKFCの宝であり、見えない糸で会員と結びついている。心より感謝の気持ちを籠めて冥福を祈ります。

#### 杉原先輩、長年お世話になりました。

##### 佐伯雅啓(会員番号0023)

体調が優れず御無沙汰していました。私は下関出身ですが「ふるさと北九州市を考える会」時代から知り合った杉原さんの、会とクラブ運営に熱心な姿が今も脳裏に刻み込まれています。その一つとして二人だけで会話をした例を綴って惜別の辞とします。新橋での例会の後はいつも居酒屋「熊本」で二次会でした。そのあと私はいつも杉原さんと新橋から新宿まで地下鉄と一緒に帰りました。その車内でも当クラブの運営や理念について語り合いましたね。それが10数年も続きました。インターネット委員への勧誘には最後まで応じなかつたので、杉原さんは不満でした。私の富士通勤務経験を知って特に期待されたようです。酒の勢いで「インターネットをやらないのはバカだ」とも言われコタエました。でも此の地下鉄内での杉原さんとの会話が一番濃密だったことを懐かしく思い出します。

「杉原健児先輩への惜別詩」  
華(ハナ)のお江戸の真ん中の  
帝劇ビルの基会所で  
囲碁打ちながら大往生  
人生お見事 杉原さん  
長年お世話になりました。

## 追悼 杉原健児君

### 杉原健児君を偲ぶ会を開催

3月19日正午より、五期囲碁会の主だった面々が杉原健児君を偲んで急逝された会場六甲倶楽部にご遺族の皆様を招いて偲ぶ会が開かれた。昼食は杉原さんが好んで食べた「ドライカレー」。

当会合に鬼塚信子さんと大鬼の二人がファンクラブの後輩として同席させて頂き、夫々の思い出話をしてご遺族の皆様をお慰めする趣向でした。

ご遺族の出席は奥さま、ご長男、ご長女、お孫さんふたりと勢揃い。父上の急逝された現場を胸に刻んで帰られたことと思います。奥様からは思い出話としてお見合いであったことなどが語られ、時の経つのを忘れるほどでした。

寄稿下さった皆様の別れの辞を掲載して永く記録に残したいと思います。（文責：大鬼諫）



### 杉原健児君を想う

会員 高橋 正二（小倉高校 1953 年卒）

平成27年2月20日18:14、畏友杉原健児君が大急ぎで逝ってしまった。我々の共通の願いでもあり、彼の念願であったピンピンコロリを絵に描いたような逝き様だった。

彼は「杉原健児のプロフィール」として学歴、職歴から家族との温泉旅行まで生涯が詳細にネット上に公開されているので、追記するのは上記逝去日付くらいのものである。

老境に入ってから彼の人は一倍奥様を大事にしていた。積極的に台所に入り、いそしんだ。又、定期的にご夫婦でカラオケを楽しむ、お別れの式場に流れていたフランク永井の「おまえに」♪傍にいてくれるだけでいい♪が持ち歌だ。ところが長子夫人は最近の心境として「今生の納めの桜観る人もあるべし我とたれか思はむ」蒔田さくら子氏の歌が、今年ほど心にしみこむ春はないように思われます、と言われる。

どちらもジンと来ます。

最近仲間との囲碁の会で、色々な学びの機会も持てた。友人の弁護士に自筆遺言書の作り方など教わったのだが、何と未完成のまま置いてあった由。「だってそんなに急に死ぬなんて思ってなかったんだもん」と口を尖がらせて言いそうだ。各々方ご油断召さるな、これは決して他人ごとではありませんぞ！

とは言え幸い家庭に於いても、かんもん北九州ファンクラブでも、確りした後継者に恵まれており、後顧の憂いなく安心して旅立てたと思う。合掌

### さようなら、杉原君

会員 島田章平（小倉高校 1953 年卒）

2月20日午後、帝劇ビル地下2階、六甲クラブの碁会（倉高5期の月例碁会）でのハプニングでした。

私との対戦中の杉原氏が中盤の難所で、熟慮中に突然碁盤の上に突っ伏してしまっただけです。彼の横で観戦中のT氏と私は驚いて、すぐに事務方に連絡をとりましたが、彼は全く意識を失っており、数分後に蘇生処置を行いました。残念乍らそのまま意識は戻らず、心不全で急逝されたのでした。

杉原氏はこの会に3年前位から参加し、殆ど毎月出席してくれていました。彼はきれいな隙のない碁を打つタイプで、ミスが少なく簡単には勝たせてくれませんでした。数年前に日本棋院で3段を取得して、今年は更に4段に挑戦し3勝1敗で無条件取得には失敗した（4戦全勝で無条件取得可）そうですが、意欲満々で再度挑戦するというので感心させられていた矢先のことでしたので、誠に残念でした。

私もあちらに行った時に彼に負けないようこれからも勉強を続けたいと思っています。合掌

### 杉原君の思い出 会員 T・F（匿名希望）

高校を卒業して東京で女子短大の寮暮らしが始まった或る休日、舎監に呼び出されて、何かと思ったら、黒の詰襟服姿の杉原君の訪問でした。行く先は東大の五月祭だったと思いますが、女子寮から最寄駅までの道を土砂降りの雨の中、黒の蝙蝠傘をさした杉原君の姿だけが、私の青春の一齣として残っています。

高校3年は同じクラスだったようですが一度も話したこともなく、卒業式にも出席しなかった私の女子寮が何故判ったのでしょうか、全く判りません。

その後「北九州を考える会」を作られて、受付を頼まれたこともありましたが、個人的会話は一切ないままでした。いつもの物静かな語り方で「子孫に残したい言葉を」と言われ、それを伝えられないまま突然の訃報に接し、申し訳なく唯々驚き、ご冥福をお祈りするばかりです。

### 杉原君が逝く 小倉高校 1953 年卒 森田佳明

また同期の逸材が一人旅立って行ったのかと思うと寂しくてなりません。謹んでご冥福をお祈りいたします。

彼の最後に立ち合われた大兄たちは大変だったことでしょうが、仲良き友に囲まれて旅立った彼は、ある意味で幸せだったかも知れませんね。

### 杉原健児さんを偲ぶ会出席者

上記の皆様他に次の方々が出席されて懐かしい昔話で花をそえました。

塩冶 先 越智 信 柏迫一民 木ノ下一郎  
広瀬祐光 三砂孝四郎（あ〜お順 敬称略）